

新たな4年間の始まりにあたって

校長 立林 絹枝

小学部8名、中学部10名、高等部本校31名、橋本分教室12名の新しい仲間を迎え、177名の児童生徒とともに、相模原養護学校の令和2年度がスタートしました。新型コロナウイルスに係る2か月に及ぶ臨時休業中は、保護者の皆様にはご理解ご協力をいただきありがとうございました。待ちに待った学校再開の時を迎えるにあたって、うれしい気持ちとともに身の引き締まる思いです。

さて、本校では過去4年間の教育活動を一つの区切りとして、今年度新たに次の4年間を見通した学校教育目標を掲げました。「発信する」「思いやる」

「挑戦する」「貢献する」という4つをキーワードに、「社会の中で心豊かにたくましく生きる」児童生徒像を目指して、教育活動を展開していきます。今年度も教職員一同、力を結集して取り組んでいきます。

保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動にご理解、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



地域とともに

副校長 藤岡 歩



相模原養護学校2年目を迎えました。令和2年度は新型コロナウイルスの対策に関連して、スタートが6月になってしまいました。保護者の皆様は、大変な3か月をお過ごしであったと思います。学校としましても、この遅れを取り戻すべく、努力をしていかなければいけないと痛感しております。

今年度から本校ではコミュニティ・スクールとしての取り組みが始まります。昨年度、麻溝公民館の協力で行った地域交流デーを中心に、さらに地域との協働を進めていきたいという思いを持っておりましたが、この新型コロナウイルスの影響もありどこまで進められるのかと難しい状況です。

こんな状況だからこそ、助け合って地域とともに歩む学校でありたいと思っています。

新たなスタート

教頭 蒲谷 卓也



今から33年前、教員としての生活をスタートしたのが、この相模原養護学校でした。まだ、桜が咲く今年3月、久しぶりに訪れました。原当麻駅や学校周辺は随分と様変わりしていましたが、校舎や体育館などを歩くと当時のことが思い出され、大変懐かしい思いがしました。

それから2か月が過ぎましたが、臨時休校のため、学校の主役である子どもたちと、会うことがかなわず残念でした。その間、相模原養護学校の先生方は学校再開の日が、児童生徒の皆さんにとって安全安心な学校生活のスタートとなるように様々な準備や環境整備を進めてきました。

さあ、いよいよ始まります。新たな生活様式を上手に取り入れながら、皆さんの笑顔がはじけ、笑い声が響くことを楽しみにしています。

テレビ神奈川

『テレビホームルーム かながわの子どもたちへ』

学習支援、子どもたちの心を学校とつなぐかけはしとして、先生たちが作成した授業がテレビ神奈川（tvk）のサブチャンネルで放映され、相模原養護学校の中学部が出演しました。

番組では、「おてつだいをやってみよう!」と先生たちが、明るい笑顔で楽しい音楽に合わせて、次々とテーブル拭き、食器洗い、洗濯物をたたむお手伝いが展開されていきました。

他にも色々な学校が放送されていますので、ご覧ください。学校のHPには、サブチャンネルの視聴方法や番組表が掲載されていますので、視聴してみてください。



学習教材郵便

各学部の先生方が、ご家庭に向けて教材を送付しました。

子どもたちの顔を思い浮かべながら、興味を持てる内容や、保護者のみなさまと一緒に楽しく取り組めるようにと考えながら工夫をされていました。健康観察の電話の際に、教材についての話題も出てくることもあり、家庭でのようすを聞くことができ温かい気持ちにさせていただいたとの声があがっていました。

小学部：妹と一緒にシールをがんばって貼っています。

中学部：学校にいるつもりになっているようで、プリントを見ると姿勢がよくなるみたいです。

高等部：是非、次も電車系のプリントをお願いしたいです。

分教室：もっと、難しい内容でも大丈夫ですよ。

このような状況の中でも、たくさんの方が関り合いながら、ご協力いただいていることに感謝しております。



校舎改修工事

学校では仮設校舎の工事が始まっています。

グラウンドに建設中なのですが、大きな音を響かせながら、重機が動いている時もあります。本当に仮設かと感じてしまうくらいのしっかりした基礎部分ができあがってきています。この状況が収束して、重機の音に負けないくらいの生徒・児童たちの歓声が聞こえることを期待しています。